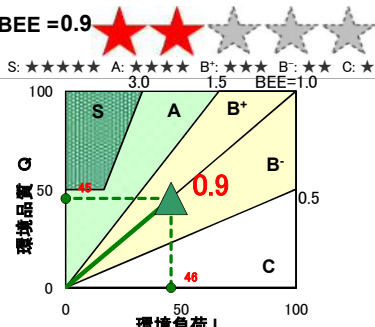


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	菊田鉄工(株)大府工場(A工場)	階数	地上2階		
建設地	愛知県大府市半月町一丁目1番 他	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	55 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年10月9日		
敷地面積	14,122 m ²	作成者	山田将寛		
建築面積	9,845 m ²	確認日	2018年10月9日		
延床面積	10,510 m ²	確認者	大澤敬正		

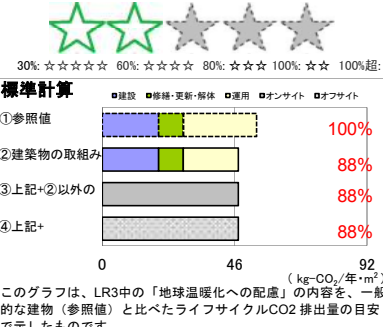
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆



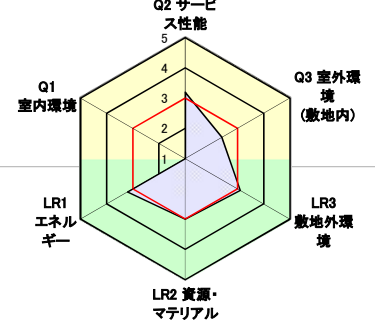
標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 88%
 ③上記+②以外の 88%
 ④上記+ 88%

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

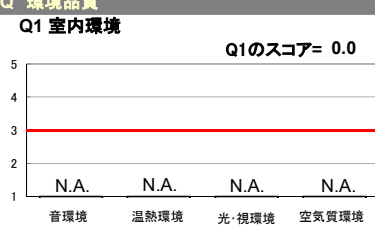


2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

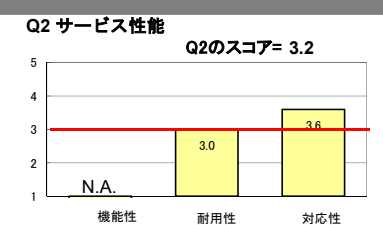
Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0



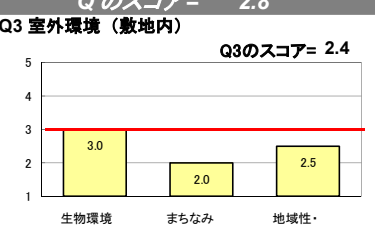
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2



Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.4

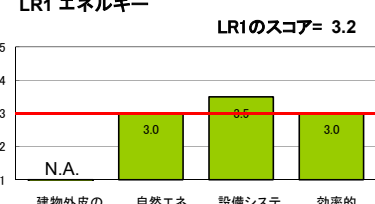


LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

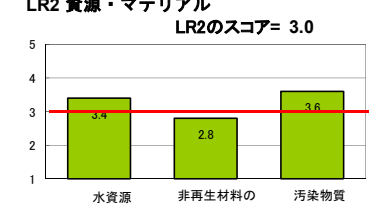
LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2



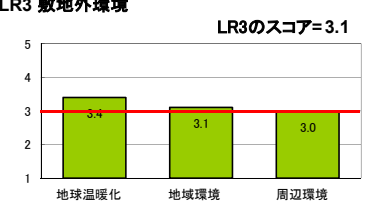
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.4



③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

67.5 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.1



④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>


なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$


 みんなの環境活動を応援しています
環境省 国土交通省

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部							建物全体・共用部		全体
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				3.6	0.48				3.6
3.1 空間のゆとり		②	階高H=6520 壁長さ比率=0.045	5.0	0.31				
1 階高のゆとり				5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性		3.0	0.17						
3 電気配線の更新性		3.0	0.11						
4 通信配線の更新性		3.0	0.11						
5 設備機器の更新性		3.0	0.22						
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22						
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー					0.40				3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.75	3.5	0.43				3.5
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価					-				
4.1 モニタリング					-				
4.2 運用管理体制					-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.0
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			省水型機器利用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63				2.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS下地利用	4.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤、シーリング材・塗料・サビ止め・塗床	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				-	-				
3 冷媒				3.0	1.00				
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2 排出率 88%	3.4	0.33				3.4
2 地域環境への配慮				3.1	0.33				3.1
2.1 大気汚染防止			燃焼機器不使用	5.0	0.25				
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自	雨水貯留槽の設置	4.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車スペースの確保・荷捌きスペース建物内確保	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

菊田鉄工(株)大府工場(A工場)

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:67.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 菊田鉄工(株)大府工場(A2)

計画上の配慮事項	
総合	建築物の壁面を敷地境界から5m以上離すとともに、緩衝樹林地を配置する事で周辺への圧迫感減少に配慮した。 近隣住居に配慮し、遮音性能の高い外壁材の採用を考慮した。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	事務所部分はOAフロアを採用し、レイアウト変更が容易に行えるよう配慮した。 ゆとりある階高を確保し、機器等の更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	機能上必要な部分以外は出来るだけ緑化する計画とし、敷地周囲に低木を連続して配置した。 防犯性を考慮し、敷地外周部はメッシュフェンスを設置した。
LR1 エネルギー	外壁にALCを採用し、断熱性・遮音性に配慮した。 LED照明を採用する事で省エネルギーに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器などの省水型の機器を採用し、省エネルギーに配慮した。 事務所部分はOAフロアを採用し、部材の再利用可能性向上に努めた。 鉄骨主要部に高強度の変断面BH材を採用し、鉄骨使用量を削減した。
LR3 敷地外環境	適切な駐車スペースを確保する事で、路上駐車等の発生を抑制する計画とした。 荷捌きスペースは建物内部空間とすることで交通負荷抑制に配慮した。
その他	特になし。